
冬の夜行散歩

封弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の夜行散歩

【Nコード】

N0684D

【作者名】

封弥

【あらすじ】

「後で来る」と言い残し青子の前を去った怪盗キッドこと黒羽快斗の帰りをずっと待っていた青子。でも、夜の十一時を過ぎてもなかなか帰ってこない快斗に少し寂しく思う青子。そして、寝ようとした青子の所に…

朝から、風が吹き酷い吹雪みたいなものだった。
昨期からずつと震えている。

今は夜。

そしてあの人は、今日も夜空を飛んでいるのだろう。

「怪我：しないでよ？」

窓辺に頼杖を付いた状態で、そう呟く。

後で来る、と言って去っていった貴方はきつとまた…。

でもそんな事なんて考えられない。

ただ貴方の帰りを待つだけで、何もすることなんて無かった。

怪我をした状態で帰って来ないことだけを願った。

絶対ね…快斗。

解ってるよね？怪盗キッドさん。

そう何度も心の中で繰り返し、一旦窓辺を離れる。

もう時計は十一時を指していた。

「そろそろ…寝なきや」

とベッドに足を運んだとき、部屋の中に誰かが飛び込んでくる。
白い服を着て、長い帽子をかぶった…

「キッド…」

「お待たせしました、夜分遅く失礼いたします」

「遅いじゃないの。後で来るって言ったのに」

「申し訳ございません…なーんて言ってるか。ちょっと手こずってな」

「ふーん…天下の大怪盗さんも手こずる時もあるのね」

「そりゃあ在るよ。嫌って言うほどな」

「仕方ないよね。あ…快斗。腕」

「あん？ああこれ位何ともねえって」

その怪盗キッドこと黒羽快斗の左腕には赤い血が。

「どうして我慢してたのよ。言ってくれたら手当てしてあげたのに」

「……迷惑かけたしよあ」

「え？なんか言った？」

「いや…何でもねえ」

悩まなくたって良いのに…

こんな傍にいられるだけで最高なのに…

たまには弱音も吐いてよ…

強気ばつかじゃ…快斗らしくないって。

私も強気で快斗も強気。

たまには弱音を吐こうよ。

言いたいこと…言ってみよ。

青子にそっくりそのまま言ってみよ、快斗。

「ねえ…」

「あん？」

「言いたいこと…言ってみ？」

「は！？いきなり何言い出すんだ？」

「悩まないでよ…無茶、しないでよ。青子が全部聞いてあげるから。」

悲しみも苦しきも辛いのも全部、青子が貰うから」

「…其れはできねえ」

「どうして」

「お前こそ、悩み あるんだろ？言えよ、俺に」

「…言いたいこと…本当に言ってる良いの？」

「ああ、何でも言いやがれ」

「…やっぱ、言わない」

『好き』だなんて…言えっこない。

『何時も喧嘩してたりするけど、快斗といれて幸せだよ』だなんて…言いたいのにな、言えない。

「ま、言いたいときに言え」

「解った」

「…よし！行くぞ、青子！」

「えええ！？何処に！？」

「良いから着いてこい！」

腕を引つ張られ一瞬よろけるが、そんなのも束の間。パジャマ姿で抱きかかえられ、大空へと飛び出す。

「ちよつと！今、十二時じゃないの！一体何する気？」

「あ？きまつてんだろ。大空の夜行散歩だ」

「止めてよ！寒いんだから！」

「そんな時のためにちゃんとあるんだよ、ほら！」

「ま…マフラー」

「使えよ」

「やだっ！快斗が暖めて…あ」

口を滑らせて、口に手を当てるが後の祭り。

「抱きしめたら良いんだな？」

「ち…違うつて…!!解った、マフラー使うか…ら？」

次の瞬間、つい昨期飛び立つときに私を抱えたときの力より、もっと強く抱きしめられる。

「ったく…お前、冷たすぎ」

「快斗が暖かいだけでしょ？…もー！冗談を真に受けないでよ！」

「ああ？むしろな…待つてたぜ。そう言われるの」

「え？どして？」

「お前…最近笑ったりしなかったから、大丈夫かな…って思って。笑顔で良かった」

「快斗…」

ねえ…快斗。

冬の夜行散歩…またしてくれる？して…くれるよね？

青子が望んだことだもの。

きつと…してくれるよね

「……また夜行散歩…連れて行くからな。お休み、青子」

最後に解ったのは、快斗が額に唇を近づけたときの吐息だった。

End

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0684d/>

冬の夜行散歩

2010年12月29日23時11分発行